

## 秋田県生涯学習・社会教育研究大会 実施レポート

日時：令和7年11月7日（金） 参加者：84名（うち市町村等から72名）  
 会場：秋田県生涯学習センター 講堂

### テーマ 地域のつながりづくりを支える社会教育の在り方 ～共生社会の実現を目指し、学び続ける人材の育成～

#### 【午前 講演】 岩手大学 名誉教授 新妻 二男 氏



『新しい「学びの場」としての社会教育施設等の在り方』と題して講演されました。まず、日本の教育制度で学校教育と社会教育が法的に対等であることを確認し、特に公民館や図書館など社会教育施設の役割を強調されました。これらは単なる貸館ではなく、専門職員が市民の学習を支援・指導する教育施設であることが法律上の位置付けだと説明されました。しかし、現状は多くが貸館機能に留まっており、専門職員を配置している市町村が全体の4割程度で「教員のいない学校のように」と強い危機感を示されました。今後の在り方として、SDGsなど複雑な課題に対応するため、

- \* 多様な機関や人々を連携・協働させるコーディネーター役を果たすこと。
- \* 一方的に指導せず、住民や学習者のニーズを丁寧に聞く姿勢をもつこと。
- \* 利用者が受容され、安心できる居場所づくりを推進すること。

以上3点が重要と話されました。

#### 【午後 実践研究発表】 ①③ 当センター副主幹（兼）学習事業チームリーダー 柏木 睦

#### ② 当センター社会教育主事 和泉 洋介

#### ① 『「熟議」の取り組みと、地域の学びを支える人材の育成』～「協働」を創り出す「熟議」～



当センターが実践する話合いの手法「熟議」が、いかに地域の中で協働を生み出すか、成果のあった多数の実践事例を交えて発表しました。発表では、「熟議」が参加者を否定せず安心して話せる場を提供し、そのプロセス自体が協働に必要な当事者意識を育む点を強調しました。また、「熟議」を重ねることが、地域や集団の中に自然な協働の意識を育てると述べました。

さらに、「熟議」を効果的に行う鍵としてファシリテーターの存在を挙げ、その役割と求められる技術（安心して話せる場の設定と雰囲気づくり、テーマ設定、資料提示等）について解説しました。併せて、当センターの熟議ファシリテーター養成講座の取組も紹介しました。

#### ② 『秋田県聴覚障害者協会と生涯学習センターとの協働による学びの場の創出』



「秋田市手話奉仕員養成講座」の受講をきっかけに、秋田県聴覚障害者協会（以下、協会）との協働関係構築プロセスを発表しました。講座での出会いから、協会主催の教育フォーラムでのモルック体験会、デフリンピック応援イベントでのブース出展へと発展した経緯を説明しました。また、障害の有無に関わらず共に学ぶ場を創出するため、職員が聴覚障害の疑似体験や手話学習、情報保障の徹底に取り組んだ点を強調しました。この事例は職員の個人的学びが組織における協働へと発展した好事例であり、協会には新しい学びや楽しみを、当センターには共生社会の実現に向けた実践の貴重な機会をもたらし、さらなる協働事業の基盤となっていると締めくくりました。

#### ③ 『地域のつながりづくりのために』

「熟議」と協働の実践事例を踏まえ、地域のつながりづくりを促すために以下の5点を提言しました。

- \* まず自分が体験・経験すべき
- \* 形や大きさにこだわらず、できる範囲で
- \* とにかく「場」を作る！（機会？ 場所？）
- \* やれない理由より、どうしたらできるか？
- \* 大きく考えて小さく動く

#### 【午後 協議】 当センター副主幹（兼）学習事業チームリーダー 柏木 睦

講演並びに実践発表で得た学びを自分事とし小さな一歩を考えるために、『地域のつながりづくりと学びを支えるために、私たちができること』をテーマとして、ワークショップを実施しました。ラウンド1を終えた時点で参加者のキーワードを集約し、「つながりづくり」「場づくり」の2つの柱に分類できること、様々な方法を用いてつながりを生み出すこと、施設に限らず地域に多様な機会を創出することが重要との考えが示されました（当センター学習相談員 皆川 雅仁）ラウンド2「たくさんさんの意見にふれ、思いを広げよう」では、自由に動いて話す活動を取り入れました。これは、参加者同士が主体的につながりをつくる大きなチャンスになり、活発な情報交換が行われました。終わりに「熟議」の目的は模範解答や結論を出すことではなく、参加者が「みんながこんなことを考えている」と感覚的に共有することが大切であり、今回、参加者の思いが十分共有された点が最大の成果であると振り返りました。



#### 【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・生涯学習、生涯教育は社会教育の充実や発展によって推進していくことや、公民館職員として地域の方々の居場所をつくる役割が重要であることを意識して取り組んでいこうと思いました。
- ・共生社会の実現に向けて互いに学び合うことの大切さを考えさせられた2つの実践発表でした。
- ・刺激と励ましとたくさんの気付きを持ち帰らせていただきます。つながりづくりはフェイス・トゥ・フェイス、学びはつながりを広げるということを学びました。